

Working Vacation をもつ $M^X/G/1$ 待ち行列

井上文彰

大阪大学工学研究科
電気電子情報工学専攻

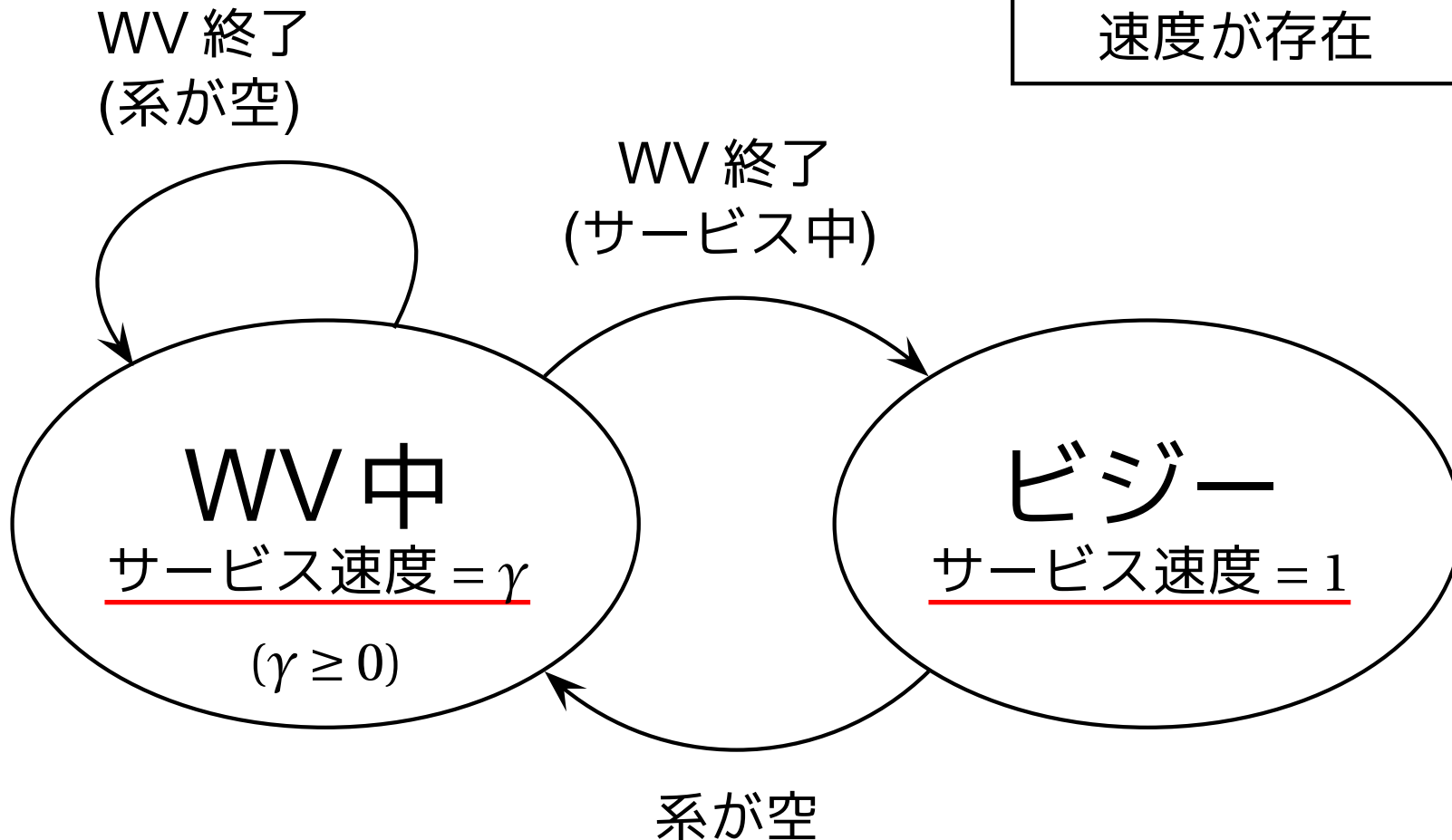
滝根哲哉

大阪大学工学研究科
電気電子情報工学専攻

Working Vacation (WV)

- WV をもつ待ち行列モデル

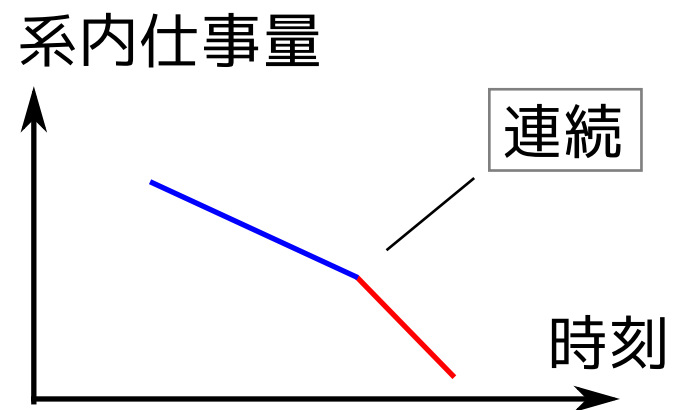
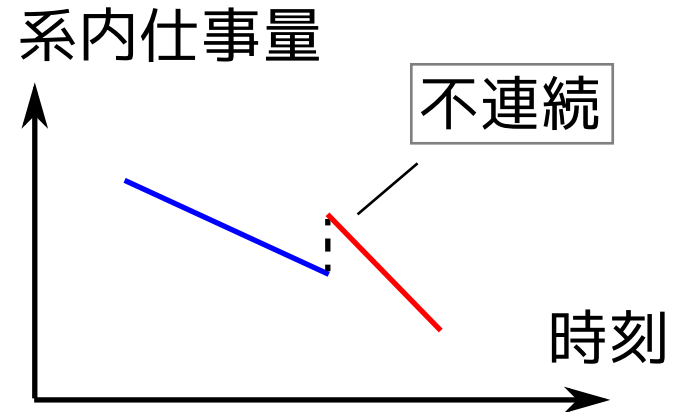
2種類のサービス
速度が存在



サービス速度の切替時点

- [Kim et al. (2003)]
- [Li et al. (2009)]
- [Wu and Takagi (2006)]
 - ◆ 切替時点で進行中のサービス
 - サービス時間をリサンプリング
 - 初めからやり直し
- 本発表で考察するモデル
 - ◆ 切替時にサービスを継続
([井上, 滝根 (2011)] と同じ)

— WV 中 — ビジー



考察するモデル (WV をもつ $M^X/G/1$)

- WV の長さはパラメタ η の指数分布に従って i. i. d.
- 客は集団で到着, 集団の到着過程は率 λ のポアソン過程
 - ◆ 各集団内の客数 G は i. i. d.
- 到着客のサービス要求量 H

WV 中である期間
に到着する客

- H は i. i. d.,

平均	: b_{WV}
分布関数	: $H_{WV}(x)$

ビジーである期間
に到着する客

- H は i. i. d.,

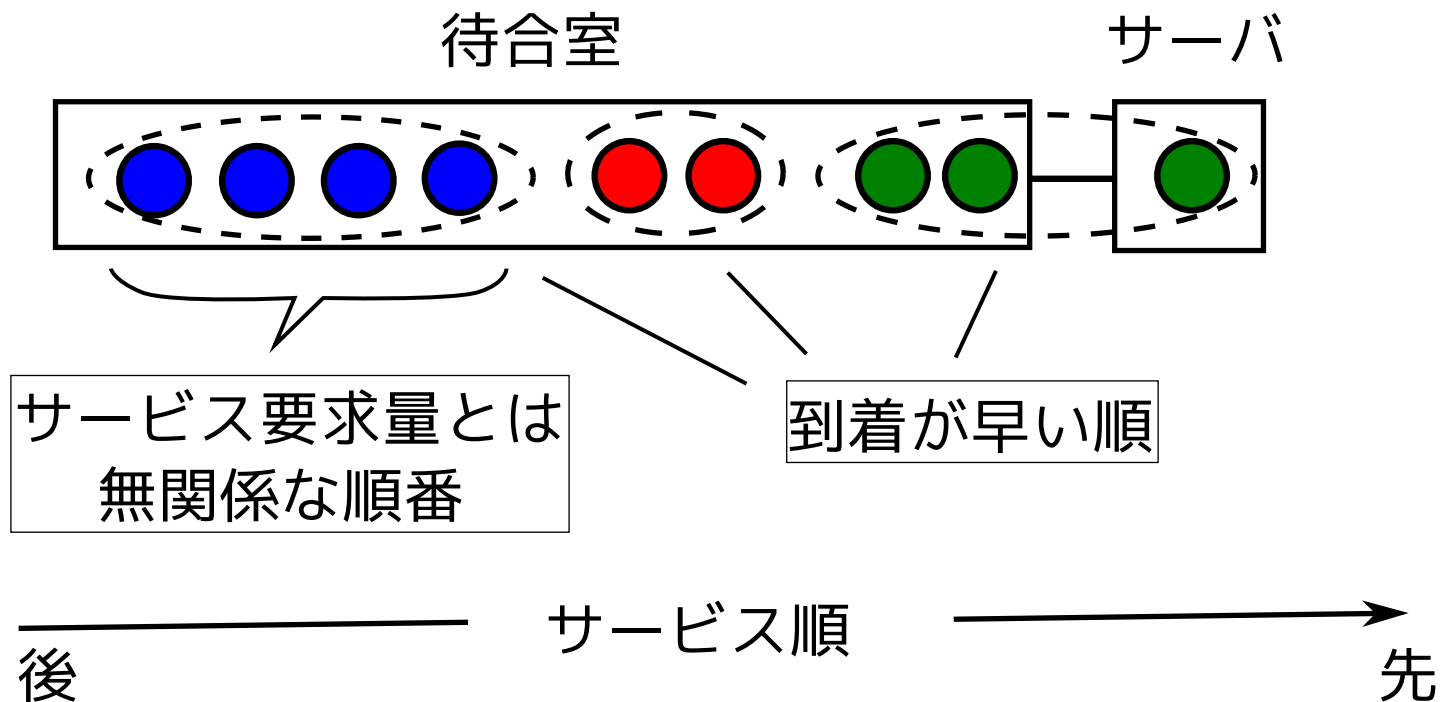
平均	: b_B
分布関数	: $H_B(x)$

- $\lambda \cdot E[G] b_B < 1$ を仮定 ➡ 系は安定

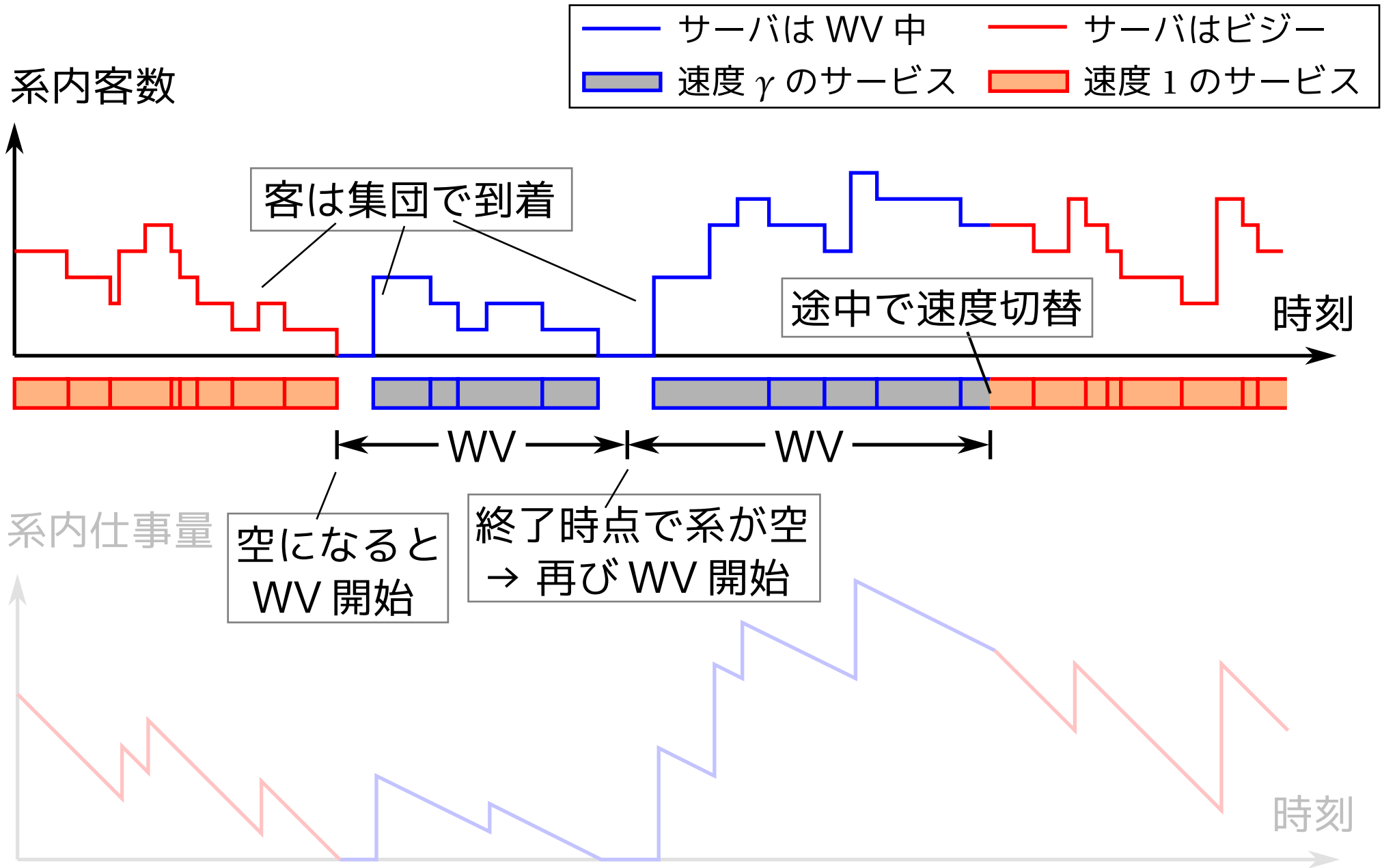
サービス順序

- サービスは先着順で行われる
- 集団内のサービス順序
 - ◆ サービス要求量とは無関係に決定

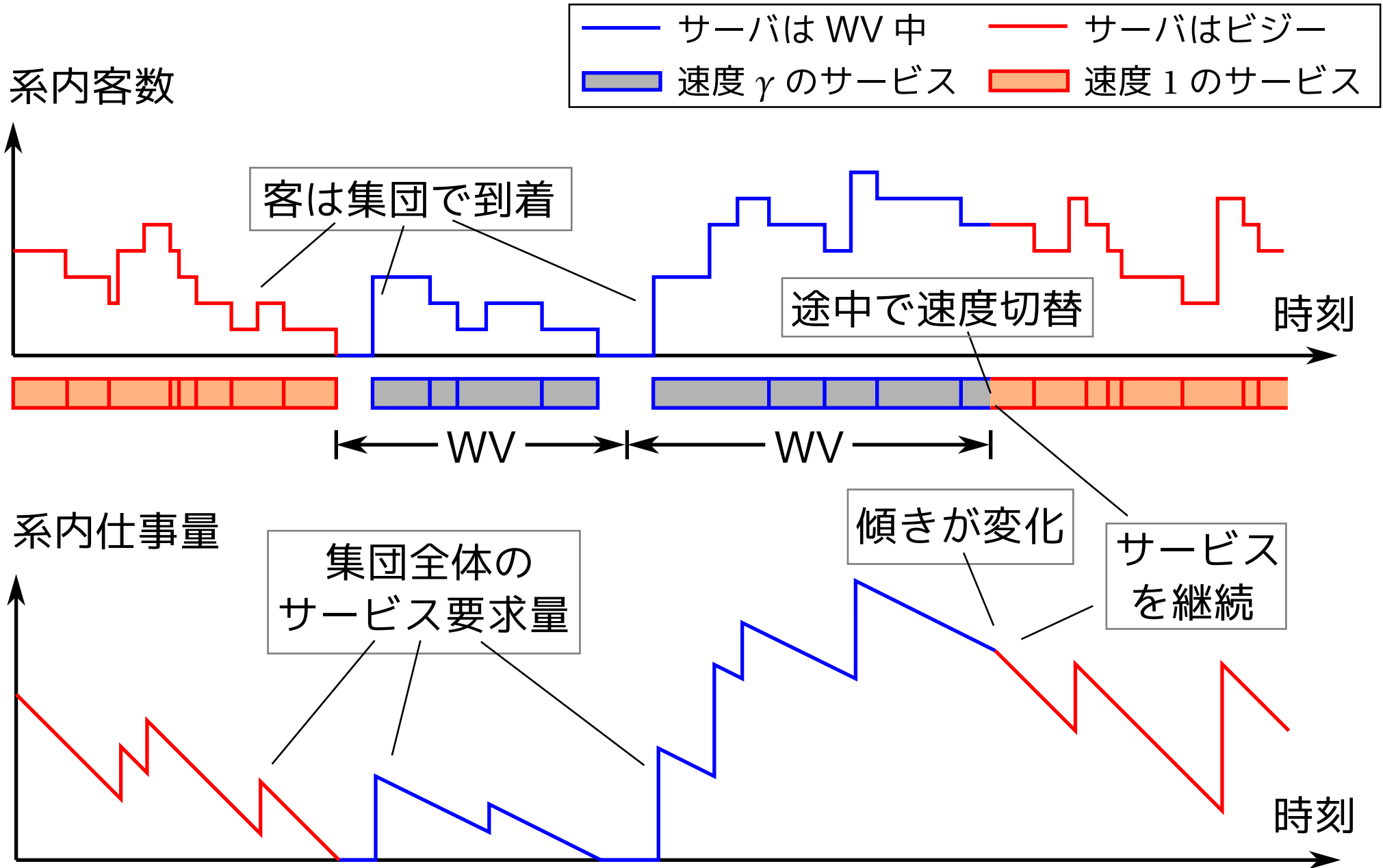
同じ集団で到着した客



標本路の例



標本路の例

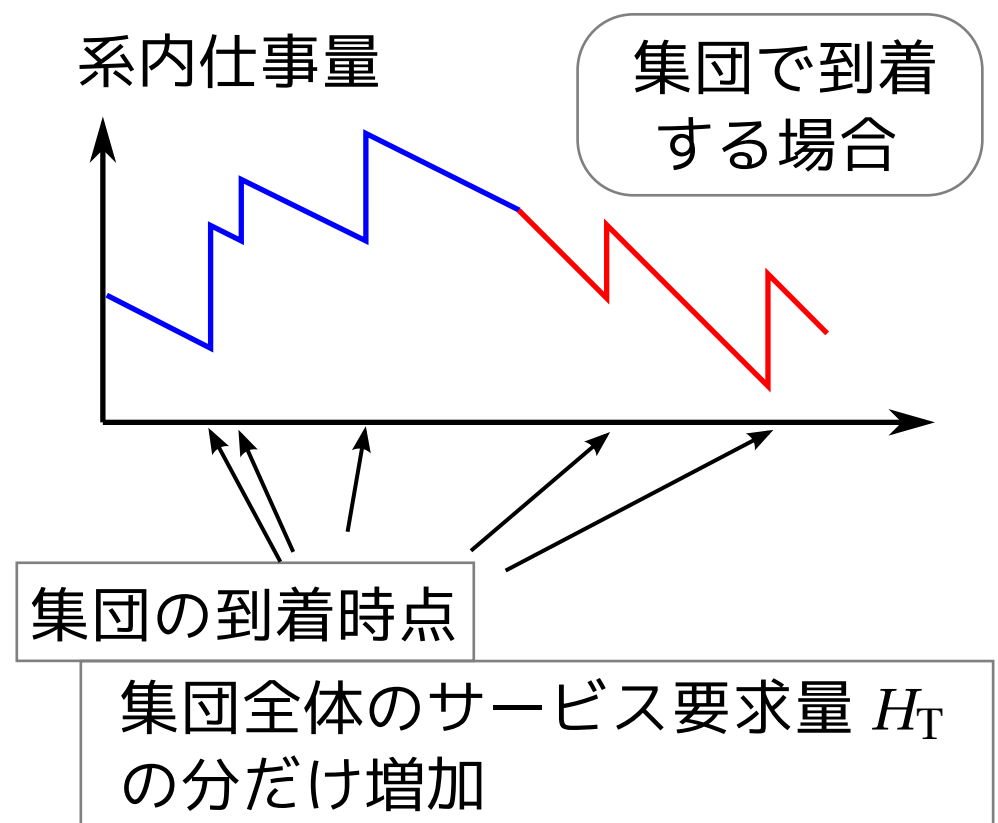
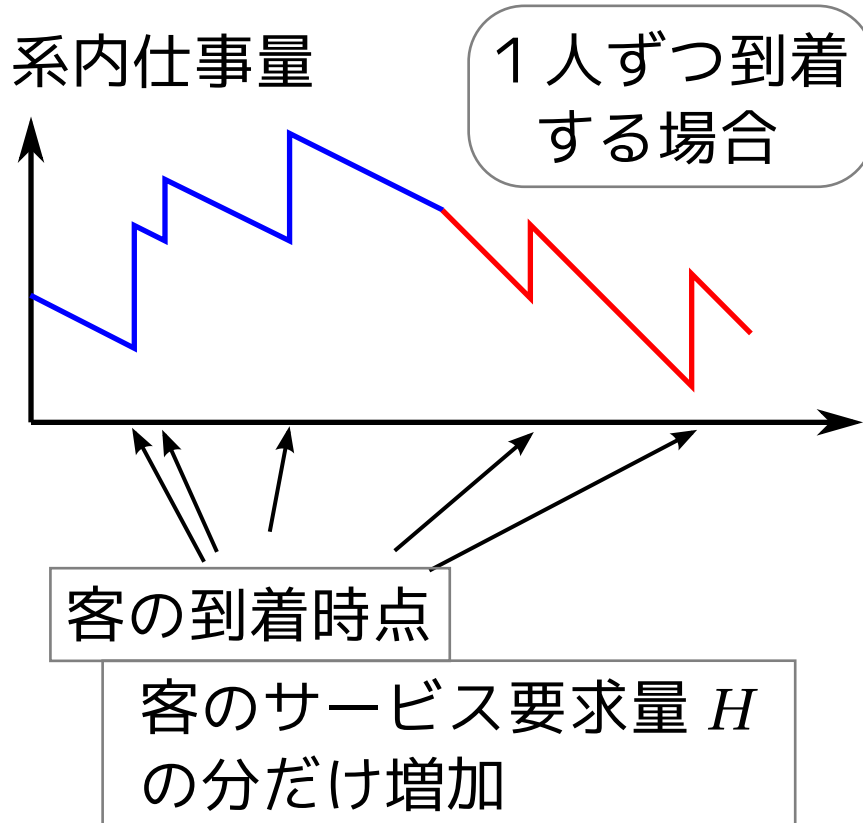


発表の概要

- WV をもつ $M^x/G/1$ 待ち行列を考察
 - ◆ 客が1人ずつ到着するモデル
に対して得られている結果 [井上, 滝根 (2011)]
 - ➡ 集団到着を考慮したモデルに拡張
 - ◆ 定常状態における系を観察
 - 最初に系内仕事量分布を解析
 - その結果をもとに,
待ち時間分布, 系内客数分布 を導出

系内仕事量過程

— サーバはビジー (傾き 1 で減少) — サーバは WV 中 (傾き γ で減少)



- H と H_T の確率的性質が等しいとき, これらの過程は等価

集団内の客の総サービス要求量 H_T

- WV 中である期間に到着する集団

- ◆ H_T は i. i. d.,

$$\text{LST} : g(h_{WV}^*(s))$$

$$\text{平均} : E[G] \cdot E[H_{WV}]$$

- ビジーである期間に到着する集団

- ◆ H_T は i. i. d.,

$$\text{LST} : g(h_B^*(s))$$

$$\text{平均} : E[G] \cdot E[H_B]$$

- G : 各集団に含まれる客数, $g(z)$: G の母関数

- H_{WV} : WV 中である期間に到着する客のサービス要求量

- $h_{WV}^*(s)$: H_{WV} の LST

- H_B : ビジーである期間に到着する客のサービス要求量

- $h_B^*(s)$: H_B の LST

系内仕事量分布のLST $u^*(s)$

[井上, 滝根 (2011)] の結果より,

● $u^*(s) = P_{WV} \cdot u_{WV}^*(s) + P_B \cdot u_B^*(s)$

- P_{WV} : Pr(サーバがWV中)
- P_B : Pr(サーバがビジー)
- ν : Pr(系が空 | WV中)

◆ $P_{WV} = \frac{1 - \lambda b_{T,B}}{1 - \lambda b_{T,B} + \lambda b_{T,WV} - \gamma \nu}, \quad P_B = 1 - P_{WV}$

◆ $u_{WV}^*(s) = \frac{(1 - \nu)s - (\eta/\gamma)}{s - (\lambda/\gamma) + (\lambda/\gamma)h_{T,WV}^*(s) - (\eta/\gamma)}$

◆ $u_B^*(s) = \frac{1 - u_{WV}^*(s)}{sE[U_{WV}]} \cdot \frac{(1 - \lambda b_{T,B})s}{s - \lambda + \lambda h_{T,B}^*(s)}, \quad E[U_{WV}] = \frac{\lambda b_{T,WV} - \gamma \nu}{\eta}$

$h_{T,WV}^*(s) \triangleq g(h_{WV}^*(s)), \quad h_{T,B}^*(s) \triangleq g(h_B^*(s))$

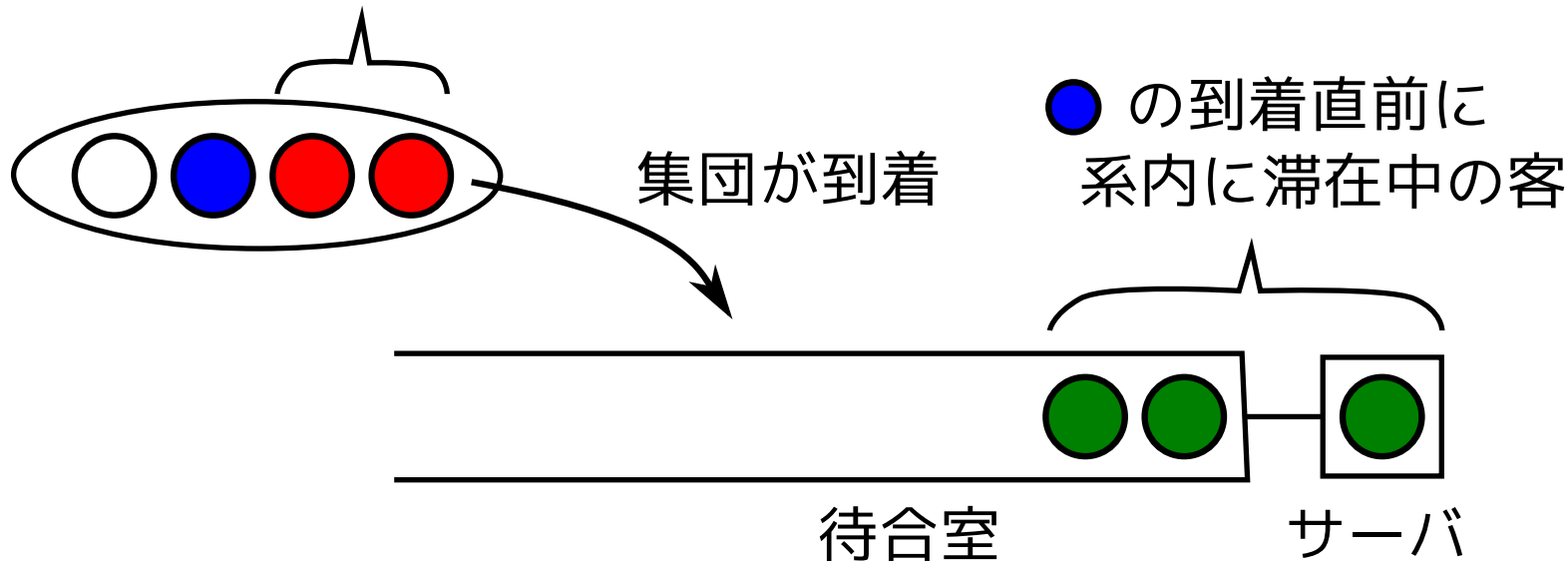
$b_{T,WV} \triangleq E[G] \cdot E[H_{WV}], \quad b_{T,B} \triangleq E[G] \cdot E[H_B]$

発表の概要

- WV をもつ $M^x/G/1$ 待ち行列を考察
 - ◆ 客が1人ずつ到着するモデル
に対して得られている結果 [井上, 滝根 (2011)]
 - ➡ 集団到着を考慮したモデルに拡張
 - ◆ 定常状態における系を観察
 - 最初に系内仕事量分布を解析
 - その結果をもとに,
待ち時間分布, 系内客数分布 を導出

待ち時間

同じ集団内で、●より先にサービスされる客



●の待ち時間：

●の総残余サービス要求量
(= ●の到着直前の系内仕事量)

●の総サービス要求量

を処理するのに必要な時間

待ち時間中に処理される仕事量

- 到着時のサーバの状態で条件付けた LST

	到着時に WV 中	到着時にビジー
集団の到着直前 における系内仕事量 独立 \updownarrow 同じ集団内で自分より 先にサービスされる客の 総サービス要求量	$u_{WV}^*(s)$ $(E[e^{-sU} WV 中])$	$u_B^*(s)$ $(E[e^{-sU} ビジー])$
	$\frac{1 - g(h_{WV}^*(s))}{E[G](1 - h_{WV}^*(s))}$	$\frac{1 - g(h_B^*(s))}{E[G](1 - h_B^*(s))}$

U : 定常状態における
系内仕事量

H : 客のサービス要求量

G : 集団内の客数

$$h_{WV}^*(s) = E[e^{-sH} | 到着時に WV 中]$$

$$h_B^*(s) = E[e^{-sH} | 到着時に ビジー]$$

$$g(z) = E[z^G]$$

待ち時間中に処理される仕事量

- 到着時のサーバの状態で条件付けた LST

	到着時に WV 中	到着時にビジー
集団の到着直前 における系内仕事量	$u_{WV}^*(s)$ ($E[e^{-sU} WV 中]$)	$u_B^*(s)$ ($E[e^{-sU} ビジー]$)

集団はポアソン過程に従って到着

U : 定常状態における
系内仕事量

待ち時間中に処理される仕事量

- 到着時のサーバの状態で条件付けた LST

	到着時に WV 中	到着時にビジー
集団の到着直前 における系内仕事量 独立 \updownarrow 同じ集団内で自分より 先にサービスされる客の 総サービス要求量	$u_{WV}^*(s)$ $(E[e^{-sU} WV 中])$	$u_B^*(s)$ $(E[e^{-sU} ビジー])$
	$\frac{1 - g(h_{WV}^*(s))}{E[G](1 - h_{WV}^*(s))}$	$\frac{1 - g(h_B^*(s))}{E[G](1 - h_B^*(s))}$

U : 定常状態における
系内仕事量

H : 客のサービス要求量

G : 集団内の客数

$$h_{WV}^*(s) = E[e^{-sH} | 到着時に WV 中]$$

$$h_B^*(s) = E[e^{-sH} | 到着時に ビジー]$$

$$g(z) = E[z^G]$$

仕事量 X の処理時間 $\phi(X)$

- $\phi(X)$ の LST [井上, 滝根 (2011)]

$\chi^*(s)$: X の LST

- ◆ 処理の開始時点で WV 中

- $\chi^*\left(\frac{s+\eta}{\gamma}\right) + \frac{\chi^*(s) - \chi^*\left(\frac{s+\eta}{\gamma}\right)}{(\gamma/\eta)\{(s+\eta)/\gamma - s\}}$

$$\triangleq \psi^*(\chi^*(s))$$

途中で WV が終了した場合は, サービス速度が γ から 1 に変化

- ◆ 処理の開始時点でビジー

- $\chi^*(s)$

サービス速度
は 1 で一定

待ち時間分布のLST $w^*(s)$

- 集団はポアソン過程に従って到着
 - ◆ $\Pr(\text{客の到着時に WV 中}) = \Pr(\text{定常状態において WV 中}) = P_{WV}$
 - ◆ $\Pr(\text{客の到着時に ビジー}) = \Pr(\text{定常状態において ビジー}) = P_B$

- $w^*(s) = P_{WV} \cdot \psi^* \left(\underbrace{u_{WV}^*(s) \tilde{g}_{fw}(h_{WV}^*(s))}_{\text{待ち時間中に処理される仕事量}} \right) + P_B \cdot \underbrace{u_B^*(s) \tilde{g}_{fw}(h_B^*(s))}_{\text{待ち時間中に処理される仕事量}}$

$$\tilde{g}_{fw}(z) \triangleq \frac{1 - g(z)}{E[G](1 - z)}$$

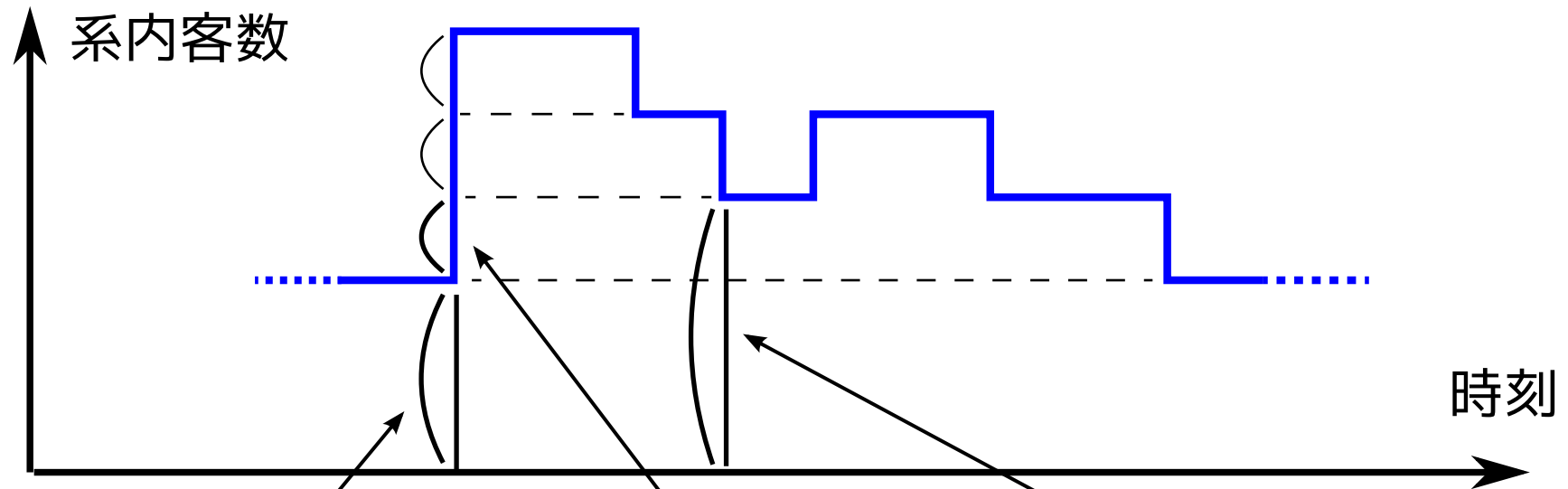
同じ集団内で自分より先にサービスされる客数 \tilde{G}_{fw} の母関数

待ち時間中に処理される仕事量

発表の概要

- WV をもつ $M^x/G/1$ 待ち行列を考察
 - ◆ 客が1人ずつ到着するモデル
に対して得られている結果 [井上, 滝根 (2011)]
 - ➡ 集団到着を考慮したモデルに拡張
 - ◆ 定常状態における系を観察
 - 最初に系内仕事量分布を解析
 - その結果をもとに,
待ち時間分布, **系内客数分布** を導出

系内客数過程

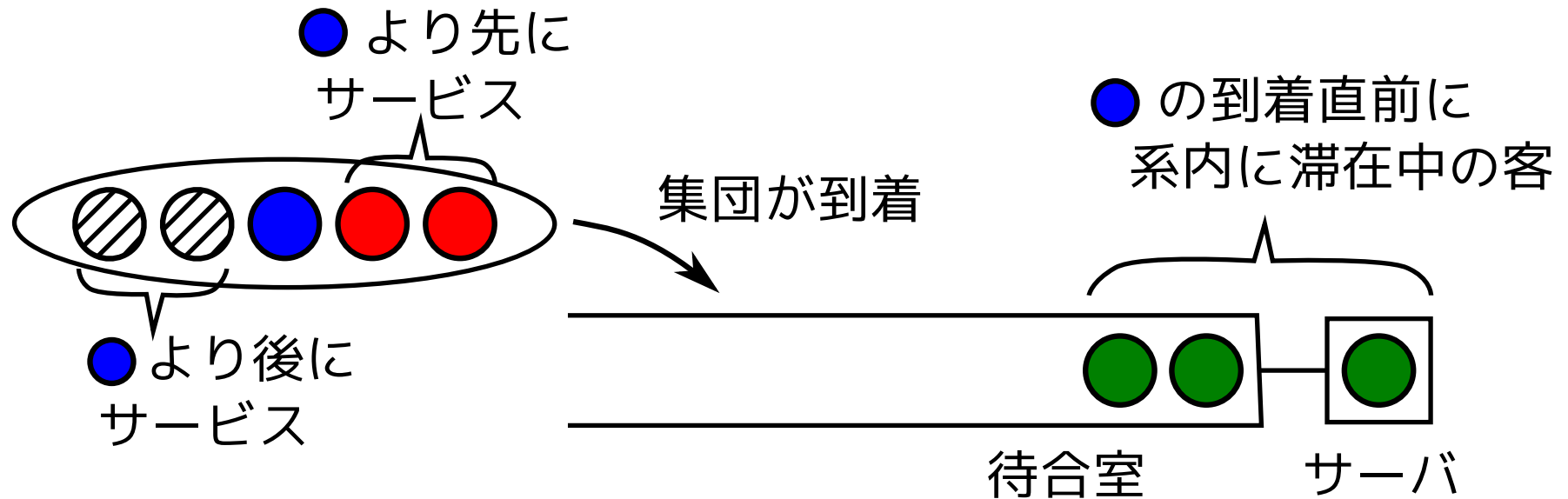


集団の到着直前
における系内客数 + 集団内の
客数の残余

客の離脱直後
における系内客数

同じ分布をもつ

客の離脱直後における系内客数 L_D



● の離脱直後における系内客数：

$$\text{斜線の数の数} + \text{●の滞在時間中に到着する客数}$$

相関をもつ

(斜線の数と●の数が相関をもつため)

滞在時間 Q と離脱直後の系内客数 L_D

- 集団は率 λ のポアソン過程に従い到着
- サービスは先着順で行われる
- Q の長さは、その間の客の到着過程とは無関係に決定

$$\begin{aligned} \Rightarrow l_D(z) &= \left(\tilde{G}_{bw} + \begin{array}{l} Q \text{ の間に系に} \\ \text{到着する客数} \end{array} \right) \text{ の母関数} \\ &= \boxed{q^*(z, \lambda - \lambda g(z))} \quad [\text{Keilson and Servi (1988)}] \end{aligned}$$

$$q^*(z, s) \triangleq E[z^{\tilde{G}_{bw}} \cdot e^{-sQ}]$$

\tilde{G}_{bw} : 同じ集団内で自分より後にサービスされる客数

$l_D(z) = E[z^{L_D}]$, G : 集団内の客数, $g(z) = E[z^G]$

\tilde{G}_{bw} と Q の結合変換 $q^*(z, s)$

- $q^*(z, s)$ は待ち時間と同様の観察により得られる

$$q^*(z, s) = P_{WV} \cdot \psi^* \left(\underbrace{u_{WV}^*(s) \tilde{g}(z, h_{WV}^*(s)) h_{WV}^*(s)}_{\text{滞在時間 } Q \text{ の間に}} \right) \\ + P_B \cdot \underbrace{u_B^*(s) \tilde{g}(z, h_B^*(s)) h_B^*(s)}_{\text{処理される仕事量と}} \quad \tilde{G}_{bw} \text{ の結合変換}$$

滞在時間 Q の間に
処理される仕事量と
 \tilde{G}_{bw} の結合変換

$\tilde{g}(z, w) \triangleq \frac{g(z) - g(w)}{E[G](z - w)}$: 同じ集団内で, 自分より
後にサービスされる客数 \tilde{G}_{bw} と
先にサービスされる客数 \tilde{G}_{fw} の結合母関数

$$\psi^*(\chi^*(z, s)) \triangleq \chi^* \left(z, \frac{s + \eta}{\gamma} \right) + \frac{\chi^*(z, s) - \chi^* \left(z, \frac{s + \eta}{\gamma} \right)}{(\gamma/\eta)\{(s + \eta)/\gamma - s\}}$$

\tilde{G}_{bw} と Q の結合変換 $q^*(z, s)$

- $q^*(z, s)$ は待ち時間と同様の観察により得られる

$$q^*(z, s) = P_{WV} \cdot \psi^* \left(u_{WV}^*(s) \tilde{g}(z, h_{WV}^*(s)) h_{WV}^*(s) \right) \\ + P_B \cdot u_B^*(s) \tilde{g}(z, h_B^*(s)) h_B^*(s)$$

- ➡ 定常状態における系内客数分布の母関数 $l(z)$ が

$$l(z) = l_D(z) / \tilde{g}_{fw}(z) = q^*(z, \lambda - \lambda g(z)) / \tilde{g}_{fw}(z)$$

から求められる

$l_D(z)$: 客の離脱直後における
系内客数分布の母関数

まとめ

- 定常状態における, WV をもつ $M^x/G/1$ 待ち行列を考察
 - ◆ 系内仕事量分布
 - 客が1人ずつ到着するモデル [井上, 滝根 (2011)]
に対する結果から直接導出
 - ◆ 待ち時間分布
 - 待ち時間の中に処理される仕事量の考察から導出
 - ◆ 系内客数分布
 - 客の離脱直後の系内客数 L_D の分布との関係式を導出
 - 集団内で自分より後にサービスされる客数と滞在時間との結合分布
 - ◆ 待ち時間と同様にして解析
 - ◆ その結果をもとに L_D の分布を導出

系内仕事量分布のLST $u^*(s)$

[井上, 滝根 (2011)] の結果より,

● $u^*(s) = P_{WV} \cdot u_{WV}^*(s) + P_B \cdot u_B^*(s)$

- P_{WV} : Pr(サーバがWV中)
- P_B : Pr(サーバがビジー)
- ν : Pr(系が空 | WV中)

◆ $P_{WV} = \frac{1 - \lambda b_{T,B}}{1 - \lambda b_{T,B} + \lambda b_{T,WV} - \gamma \nu}, \quad P_B = 1 - P_{WV}$

◆ $u_{WV}^*(s) = \frac{(1 - \nu)s - (\eta/\gamma)}{s - (\lambda/\gamma) + (\lambda/\gamma)h_{T,WV}^*(s) - (\eta/\gamma)}$

◆ $u_B^*(s) = \frac{1 - u_{WV}^*(s)}{sE[U_{WV}]} \cdot \frac{(1 - \lambda b_{T,B})s}{s - \lambda + \lambda h_{T,B}^*(s)}, \quad E[U_{WV}] = \frac{\lambda b_{T,WV} - \gamma \nu}{\eta}$

$h_{T,WV}^*(s) \triangleq g(h_{WV}^*(s)), \quad h_{T,B}^*(s) \triangleq g(h_B^*(s))$

$b_{T,WV} \triangleq E[G] \cdot E[H_{WV}], \quad b_{T,B} \triangleq E[G] \cdot E[H_B]$

待ち時間分布のLST $w^*(s)$

- 集団はポアソン過程に従って到着
 - ◆ $\Pr(\text{客の到着時に WV 中}) = \Pr(\text{定常状態において WV 中}) = P_{WV}$
 - ◆ $\Pr(\text{客の到着時に ビジー}) = \Pr(\text{定常状態において ビジー}) = P_B$

- $w^*(s) = P_{WV} \cdot \psi^* \left(\underbrace{u_{WV}^*(s) \tilde{g}_{fw}(h_{WV}^*(s))}_{\text{待ち時間中に処理される仕事量}} \right) + P_B \cdot \underbrace{u_B^*(s) \tilde{g}_{fw}(h_B^*(s))}_{\text{待ち時間中に処理される仕事量}}$

$$\tilde{g}_{fw}(z) \triangleq \frac{1 - g(z)}{E[G](1 - z)}$$

同じ集団内で自分より先にサービスされる客数 \tilde{G}_{fw} の母関数

待ち時間中に処理される仕事量

定常状態における系内客数 L

- 集団内の客数 G と, その到着直前の系内客数 L_A^b は独立

- ◆ $l_A^b(z) \cdot \tilde{g}_{fw}(z) = l_D(z)$

$$l_A^b(z) \triangleq E[z^{L_A^b}], \quad \tilde{g}_{fw}(z) = \frac{1 - g(z)}{E[G](1 - z)}, \quad l_D(z) \triangleq E[z^{L_D}]$$

(G の残余の母関数) L_D : 客の離脱直後における系内客数

- 集団はポアソン過程に従って到着

- ◆ $l_A^b(z) = l(z)$

$$l(z) = E[z^L]$$

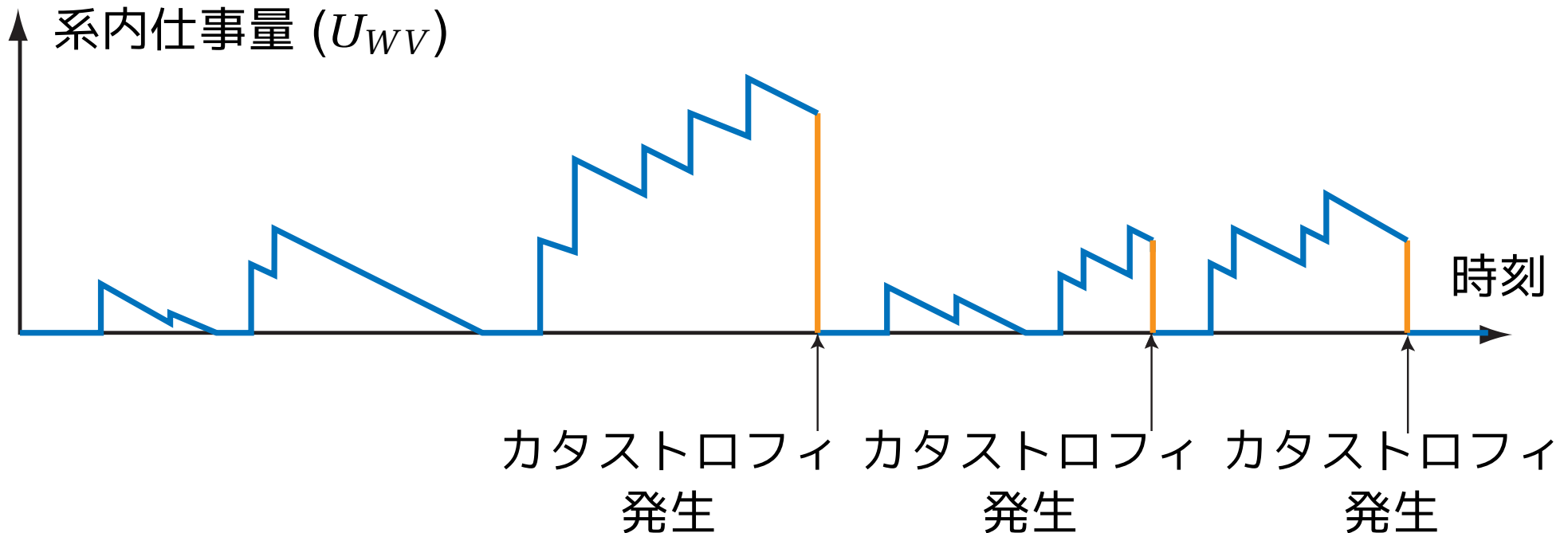
- $l(z) = l_D(z) / \tilde{g}_{fw}(z)$

- ◆ $l_D(z)$ が求められれば $l(z)$ が得られる

系内仕事量過程 (WV 中)

- カタストロフィをもつ M/G/1 と等価

- ◆ カタストロフィが発生 ➡ 系内の仕事は全て破棄
- ◆ ポアソン過程に従ってカタストロフィが発生



系内仕事量過程 (ビジー)

- バケーションをもつ M/G/1 の, サービス中である期間と等価

